

「事務的ふたなりメイドの主従逆転調教録」ご主人様、メイドにおちんちんで負けたいだなんて最低です」

scenario:ハシダ シュンスケ

=====

1. 初めまして、ご主人様。今日からご主人様付きのメイド、式珠です。

=====

失礼いたします。

お初にお目にかかります、ご主人様。

本日からご主人様付きのメイドとして、
働かせていただくことになりましたツカサと申します。

ご主人様の身の回りのお世話を含めて担当させて頂きますので
何かご希望がありましたら、何なりとお申し付けくださいませ。

それと、こちらは朝のハーブティーとなっております。

覚醒ホルモンであるコルチゾールの分泌をカフェインによって阻害しないように、ノンカフェインのペパーミントティーをご用意させて頂きました。

どうぞ召し上がりくださいませ。

はあ……美味しかったですか。

ご主人様のお口に合ったなら何よりです。

朝のティータイムが終わりましたら朝食をご用意してありますので。
ダイニングまでお越しいただければと思います……

ご主人様、いかがなされました？

わたくしの態度に不備がございましたでしょうか。

ああ……眠そうに感じられたのであれば、申し訳ございません。
特に機嫌が悪いわけでもなく、こういう気風なのでございます。

誤解されたのであれば、謝ります。

職務には特段問題はありません……はい、ご理解いただけますと幸いです。

それでは、わたくしは他の支度もございますので、戻らせて頂こうと思います。

何か御用がございましたら、このベルを鳴らして頂ければ、屋敷の何処にいるにも拘らずわたくしの付けている「奉仕契約」の証であるチャーカーに、連絡が伝わることになっております。

ですが、ご安心ください。

わたくしは、この首輪の有無にかかわらず――

主人様からの命に逆らう権利も理由ありません。

ご主人様が望まれるのであれば性欲処理もなんなりと承ります。

ただ、ご主人様はご承知のことと思われませんが……

このように、わたくしたちメイドは不貞行為を防ぐため貞操帯を付けておりますので……申し訳ございませんが、ご主人様がお望みになられるような性行為は許されておりませんので、ご期待されていらっしゃったのでしたら、申し訳ございません……。

ご主人様、いかがなされました？

わたくしの股間に何かふくらみがあることが気になりましたか？

はい、これは見ての通りわたくしの男性器です。

わたくしはふたなりであることを両親にうとまれ、メイドとして奉公に出されましたので――これは紛れもない本物で御座います。

こちらにも、貞操帯は付いておりますが――ご主人様は男性の方ですので。

このようなものに欲情なされるとは思わないのですが……はあ……言葉に詰まるようでしたら、そろそろ職務の方に戻らせて頂きますね。

兎も角、わたくしのような身分の女でよろしければ――

いつでも遠慮なく奉仕をお申し付けください。

はい、それではわたくしは職務に戻らせて頂こうと思います。

それではまた、失礼いたします。

=====

2. ご主人様のマゾ性欲を焦らすように、淫乱マゾの肉棒とアナルを被虐的に弄ばせていただきます

=====

失礼いたします、ご主人様。

ご休憩のお時間ということで、バラとリンゴのフレーバーティーをお持ち致しました。

タンニンが弱めの茶葉でございますので喉を通りやすく、ご主人様のお疲れを癒すにはちょうど良いかと思えますので、お茶菓子と併せてお楽しみください。

失礼します。

はぁ……美味しかったですか。

自分なりに考えたチョイスでしたので、気に入ってくださって何よりです。

ご主人様……他にわたくしめに望むことはございますか？

特に御用もないようでしたら、他の支度もございますので、戻らせて頂こうと思いますが……

んっ……ご主人様、いかがなされましたか？

そのように抱き着かなくても、わたくしはどこにも行きませんよ……

はぁ……なるほど、休憩中の娯楽として性的な奉仕をご希望されるのですか？
先ほど性器を用いた奉仕は出来ないと申しましたのに――

ですが、ご主人様が望まれるのであれば……

ご主人様のお世話を担当する身として、励ませて頂きますね。

ご主人様、これから性器を刺激させて頂きますので

下を脱いで、あちらのベッドの上で楽な姿勢を取って頂けますか？

その間に、わたくしも性欲処理用の道具を用意させて頂こうと思います。

ご主人様……よろしいですか？

あら、ご主人様……わたくしは楽な姿勢にしてほしいと言ったのですが……
どうしてそのような、浅ましい四つん這いの姿勢を取られているのですか？
はあ……できればこの姿勢で、わたくしに性器を被虐されたいのですか？

分かりました、それがご命令というのであれば、わたくしには断る理由がありません。

それでは、わたくしも手袋を新しいものに変えましたので……

つたない奉仕で、ご主人様がご満足いただけるかはわかりませんが……

ご主人様の肉棒を一方的に刺激して、絶頂へと導いてまいりますね。

ん……ご主人様の肉棒は、大変ごりっばでいらっしやいますね。

あったかくて、ガチガチに硬くなって……

竿を上下に、牛の乳を搾るように扱かれるだけで

快感を求めるようにびくびくと震えています。

そのように過剰な反応をして頂けるということは――

ここはご主人様の急所、敏感な場所なのでですね。

わたくしのような下賤なメイドに

このような大事な場所をさらけ出してくださいさること

本当に光栄に思います。

ご主人様も我慢が出来なくなったら

わたくしのことは家具とでも思って

遠慮なく射精して頂ければ幸いです。

ええ、そうです。

わたくしは家具、ご主人様に奉仕することを命ぜられた道具に御座います。

生き物として、哀願して頂く必要すらございません。

どうぞご命令の上、自分のペースで、ご主人様の快感を優先してください。

それよりもご主人様、わたくしの手淫は気持ちいいですか？

ペースや速さは申し分ありませんか？

どこか他に触ってほしい部位はございませんか……？

はぁ……指で、アナルを刺激して欲しいのですか？

それと、出来る限り――

ご主人様の現状や疑問に思ったことは、煽るように指摘して欲しいですね。

分かりました……努力致しますね。

では、ご主人様の要望通り、アナルへの愛撫を始めさせて頂きます。

すみませんが、わたくし……不器用なものですから……

一度手淫を止めまして――ローションの蓋を開けさせて頂きます。

迅速にご主人様のご要望を叶えるため――

一度御奉仕が途切れることをお許しください。

はい、わたくしのシルクの手袋の上で、粘度の高いローションが広がっています。

くちゅくちゅと音を立てるの……はぁ……気持ちよさそうです……

ご主人様も、もう待ちきれないと言った表情ですね。

それではご主人様、アナルの方をローションを使って、入念にほぐして参りますね……

あら、ご主人様はこちらの方で、よく遊ばれる方なのですか？

周りを解してから挿入するつもりでしたが――

御主人様のアナルが皺を解すまでもなく、わたくしの指を抵抗なく飲み込んでしまいました。

その、まるで女性器のようにわたくしの指を受け入れ――

待ちわびていたようにわたくしの指を遠慮なく喰い締めて――

肉棒が我慢できないようにびく、びくと震えております。

すみません、触ってあげられなくて――まるで「おあずけ」のようになってしまいました。

はぁ……わたくしの手が上下するのに合わせて、腰までガクガク震えだして……

ご主人様、最近、このような行為はされていらっしやらなかったのですか？

はぁ……わたくしのようなメイドの手で、被虐されたくて――

我慢していらっしやったのですか……？

そうですか……でしたら、もっと……

積極的にご主人様のアナルへと刺激を行っていきますね。

ご主人様の前立腺は思ったよりも開発されているようですし……

指で刺激を加える度に、まるで背筋に電流が奔ったように痙攣なされて――

気持ちよさそうな声を上げて、びくびくと快感を感じてくださっていらっしやいます。

ご主人様は、矢張りこのような刺激がお好みなのですな。

肉棒を抜く刺激以上に、前立腺をとんとんと刺激した方がずっと――

ご主人様は、深い羞恥と快感を感じてるように見えます。

いえ、別に変態的な性癖を持っていることを誇(そし)るわけではございません。

別にご主人様が、メイドに急所を蹂躪されるのが性癖だとしても、気持ち悪くなんてありません。

むしろ、わたくしの愛撫でご主人様が甘えた声あげてくださいること、まことに光栄にございます。

肉棒もアナルも、愛撫を続ければ気持ちよくなってしまうのは当然のことですから。

それとも、より気持ちよく喘ぐことができるような

性器への刺激をご希望なのでしたら、そのようにいたしますが……

かしこまりました。

もっと激しく責め立ててほしいということであれば

アナルに指を二本挿入しまして、腸壁を抉るような動きを加えていきますね。

ご主人様、指を増やして、前立腺を押すように加えていますが――

お気に召して頂きますでしょうか。

アナルが先程よりも強く締め付けてくるようになり……

心なしか肉棒も喜んで我慢汁を垂らしているように思います。

ご主人様は自らのマゾであるというご申告の通り

少し激しめに、リズムよく性器を刺激される方がお好みの方ですね。

腰を引く様な姿勢になって快感に逃げられておりますが……

ご主人様のアナルに挿入した指は引き抜こうとするたびに喰い締められて——
まるでわたくしの指を男性器と勘違いしたかのように、快感を逃さぬように貪っております。

どうぞ、射精感が高まったのでしたら、そのまま絶頂まで達して下さいませ。

わたくしも、より強くこしこと刺激するペースを上げて継続した快感を与え続けていきます。

ふふ、ご主人様。

わたくしからの被虐によって感じている快樂、決して演技ではないのですね。

肉棒とアナルを指で攻めるたび、腰を浮かせながら感触に甘えられて——

刺激をちよつと強めただけで——先ほど以上にあんあと喘がれて——

前立腺に触れる度に絶頂を感じられているかのように痙攣して——

これからも性的な奉仕の際は、被虐心を満たして差し上げなければならぬようです。

ご主人様、メイドからの指奉仕で、気持ちよくなって頂けて何よりです。

睾丸がせり上がり、徐々に亀頭が震えていらつしやるということは限界が近いようですし

このように肉棒への刺激を弱めた上で、アナルへの刺激を早めてまいります。

ご主人様にとっては、下賤なメイドから与えられる肉棒への、かすかな刺激を求めながらの屈辱的な射精になると思いますが、どうかわたくしからの戯れということでお許し下さいませ。

それとも、こうゆつくりと——焦らすような刺激で焦らされるままに、精液をこみ上げなければいけない、こんな状況は戯れとはいえ少々意地悪が過ぎますでしょうか……

幾等、重度の被虐趣味をお持ちのご主人様と云えど、焦らし射精でマゾ敗ける前に肉棒を目一杯刺激されての、男性として目一杯誇りあるお射精をお望みだったのででしょうか。

ふふ……そんなことは、ないようです。

ご主人様の肉棒もアナルも、か細い奉仕を必死に受け止めて、ことのほか——お喜びでございます。

オスとして無様な射精を強要され、家具の掌に不満足に白濁をまき散らす。
そんな屈辱的な、射精とも呼べない刺激こそ、ご主人様にはたまらなく心地よいようでございますね。

肉棒への刺激が足りませんか？

でしたら、遠慮せずにアナルの快感に御頼り下さい。

前立腺を刺激されての、ドライオーガズムから始まる射精であっても――

性器への刺激は続けさせて頂きますので、精液の方は吐き出すことが叶うと思われますよ。

現にもう、前立腺は絶え間なく痙攣を始めて――

ご主人様のメスの部分は既に絶頂を迎えようとしております。

さあ、存分に果ててくださいませ。

ご主人様の肉棒とアナルは、わたくしの指先によって支配されております。

この二つの穴を同時に責められてしまえば、もはや耐えることなど不可能でしょう。

ほら、いつてくださいませ。

ご主人様のお尻の穴は、わたくしの指先に屈服して、敗北宣言をしていらつしやいます。
ですからどうか、その証をお見せくださいませ。

どうぞ、受け止めて差し上げますので……さ、どうぞ……ご遠慮なく……

メイドの奉仕に屈服した、情けない被虐精子を、たっぷりとお出しになつてください。

ふふ、びゅーっと肉棒から精液をお漏らしできて……気持ちよさそうで何よりです。

わたくしの指に触れている前立腺も精液をお出しになろうと必死になって震えております。

はい、いかがされましたか？

もしかして肉棒の刺激が足りず、射精の快感を満足に味わえなかったのが、ご不満だったのでしょうか……マゾと言うものは、難しい物なのですね。

でしたら、遠慮なくアナルの刺激を強めさせて頂きます。

尿道に残った精液を一滴たらず絞り出せるように折檻させて頂きます。

さ、どうぞ。

尿道に残った最後の一滴まで……遠慮なく、メイドの手の中におもらしてください。

はい、ご主人様、お疲れ様でした……

初めての性的な奉仕でしたが、不足はありませんでしたか？

ふふ、そのように欲情した視線を向けて頂き、感謝の言葉ありません。

肉棒もまだ精液だしたりないと、勇ましく勃起なさって……

それに、何か御褒美をだなんて……なるほど、追加の性的な奉仕をお望みなのですね。
わたくし……これ以上のプレイとなりますと……でも仕方ありませんね。

わかりました。

ご主人様の命、確かに受け取りましたが——しばしの間、準備の時間を頂ければ幸いです。

お紅茶は冷めないように工夫しておきましたので、どうぞ休憩代わりにお飲みください。
ゆっくりと一杯、時間をかけて飲み終わったところにベルを鳴らしてお呼び出し頂ければ幸いです。

はい、それではわたくしは準備に戻らせて頂こうと思います。
それではまた、失礼いたします。

=====

3. メイドの開発済アナルでザーメンを搾りとりながら、罵倒されてそんなに嬉

しゅうございますか？

=====

失礼いたします、ご主人様。

ご休憩が終わったのでしたので、ティーポットを下げに参りました。

はぁ……いかがされましたか？

ご主人様、わたくしをベッドの上で見つめながら不満足そうに息を荒げられて……先ほどのアナルほじりしながらの不満足射精で、欲求不満が限界を迎えてしまいそうなのでしょうか？

ふふ、まるでわたくしのせいだと言いたげな表情をしておりますが……

先ほど、ご主人様相手に——待つように懇願したこと、わたくしは忘れてなどおりませんよ。

ご主人様のマゾ性欲を焦らすように、淫乱マゾの肉棒とアナルを被虐的に弄んだこと。そして、ご容赦を頂き、準備をする暇を頂いたこと。

そのお陰で、ご主人様に楽しんでいただけるように、わたくしも相応の準備をしまいいましたが——ご主人様はもう、一刻も我慢ならないといったご様子ですね。

はい、分かっております。

メイドとしてもご主人様の心を弄ぶのは、決して快いことではございません。

ですから、ご主人様のその行き場のない性欲を——

不満足射精で苛々が止まらないご主人様の肉棒を——

下賤なメイドの浅ましい尻穴——ケツマンコにぶつけて頂き、精液をコキ捨てて頂きたいのです。

これが如何に、はしたないお願いであるかは——存じているつもりですが——

わたくし——先ほどの御奉仕で、ご主人様が、女性からどのような屈辱を与えられれば、お喜びになるのか——さきほどの奉仕で、よく理解できております。

わたくしにとつてのアナルは——貞操帯で前後の性器を封じられた肉体で唯一、日常的に快感を感じることを許された、性処理用の生穴であり、排泄器官でありながら、わたくしの身体において最も淫らな場所に御座います。

ですが、ご主人様にとつてのアナルなど、子作りのための白濁を灌ぐ価値のない不浄の穴。個作りでもなく、慕情を抱くこともない、わたくしとの交尾など、精々オナニーの延長線上にすぎません。

わたくしはこのまま……ベッドの上で、犬がするような四つん這いの姿勢になることにいたします。

さ、ご主人様……どうか、己の手ではふたなりおちんぽを手淫することすら叶わない。女の快感を受け入れることすらできないわたくしめの便器穴で——

犬のように浅ましく、腰を振って性欲処理にいそしんでくださいまし。

ああ、ご主人様……そんなにも嬉しげなお顔をなさって……

メイドの拙いおねだりに興奮してくださったようで何よりです。

さ、どうぞご遠慮なく、わたくしのケツマンコに肉棒を突き立てて……くださいまし

んっ……♡

はい、わたくしのアナルで——ご主人様の、肉棒を、受け入れさせていただきますました。

んっ……♡

中は既にローションで、濡らしてありますので——わたくしは、ご主人様の肉棒が、アナルをめりめり広げる感触と、動物のように覆いかぶさった、ご主人様の吐息と体重に、肉体を征服される快感と屈辱を感じております。

どうぞ、これは性欲処理ですから——遠慮なく腰をお振りになってくださいまし。

はあ……♡ いかがされましたか？

わたくしのケツマン便器穴が、いともたやすくご主人様の肉棒を受け入れたこと——
そんなに意外でしたか？

はい、これもわたくしのメイドとしての嗜みの一つでございます。

浣腸液を使って直腸内を綺麗にした上で——ご主人様のアナルにしたように、自らの指でアナルの肉ひだを広げて、準備をしてまいりました。

わたくしの肛門括約筋は、ご主人様の逞しい男根を受け入れられるよう、常日頃から拡張している、ご主人様の種付け練習用の偽牝台にございますっ……

ですから、こうしてご主人様の肉棒を咥え込むことも——女性器のように締め付けて、快感を感じて頂くことも嗜みの内でございます。

ですからご主人様は、わたくしの心配ではなく——

ローションまみれの腸壁に包まれて、浅ましい痙攣を感じている。

自身の動物チンポのことをご心配ください。

そのように、ピストンのたびにか弱く声を上げて——マゾらしい拙いピストンで、腰をへこへこされるなんて……ふふ……申し訳ございません、つい、おかしくて声を上げてしまいました。

メイドにこのような情けない声を聞かれてしまったては、ご主人様も形無しでございますね。

ご主人様……わたくしのケツマンコ、性欲処理用の生オナホの感触は如何ですか？

わたくしはご主人様が立派な逸物を卑しい粘膜にこすれながら包み込まれて

随分と幸せそうに腰を振っていらっしやるのを感じていますので——今さら言うことでも無いとは思っておりますが……♥

もし、このような性欲処理がお好みであれば——これからも行為の下手さを罵倒しながらのマゾ向けセックスで、鬱勃起した肉棒を受け入れさせて頂きますね。

んっ……♥

少し罵倒したくらいで、そんな乱暴に腰を振って——

わたくしはご主人様の逆鱗に触れてしまったのでしうか。

ん……やはりご主人様の肉棒は素晴らしいですね。

わたくしの貧相な尻穴など、簡単に押し広げて——腸壁越しに、わたくしの子宮と前立腺を刺激して、封印されたはずの性器をメスイキさせようと必死です。

ご主人様は、わたくしにセックスの下手さを煽られて、自暴自棄になってしまっているのでしょうか——でしたら……どうか、この、発情期の動物のような、性欲任せの乱暴な腰振りをご容赦ください……

ご主人様のせいで、わたくしまで脳に性欲が詰まった畜生に堕ちてしまいます。

メイド以下の犬になってしまいます……んっ♡
はぁ……♡、いかがされましたか？

もっと嫌がって——わたくしとのアナルセックスに罪悪感を感じたいのですか？

申し訳ございませんが、本来はご主人様に対して

このような発言をすること自体が憚られるのですが……

んっ……♡

これが、ご命令だというのであれば……

わたくしの口からは、何と言ってもご主人様は聞かないのでしょうか……

でしたら、せめてこれからいうことは全て——

「ごっこ遊び」と言うことでお受け取りください。

メイドの本分として、わたくしはご主人様をお慕い申しております。

わたくしのようなふたなり女にすら、悪意を持たずに接してくれる。

ご主人様に、わたくし、好意すら感じております——

ですから、もうおやめください……♡

おやめください……ご主人様。

立場あるご主人様なのですから罵倒されながら喜んで——

嫌がる女の上で嬉々として、腰を、振るのを、おやめください……

立場ある、男性の特権に胡坐をかいて……

抵抗できない、メイドの、御不浄に、精液をコキ捨てるような真似は——

どうか、おやめください。

息を荒げてケツマンコを貪る、ご主人様の姿、人として本当に最低です。

下劣で下品、こんな男に奉仕しなければならないだなんて、屈辱ですっ。

うう……その、思いつく限りのっ……

罵詈雑言を吐いてみましたが、ご主人様は腰を振るのをやめないどころか……

肉棒を固くして、先ほど以上に、腰を叩きつけてくるなんて……やはり、ご主人様はほんと

うに、筋金入りのマゾなのですね。

ふふ、肉棒を受け入れているから解りますよ。

ですが、わたくしもっ……そろそろ限界でございます。

腰の奥から子宮を刺激されて、あさましくご主人様のベッドの上で、絶頂することをお許しください。

もう、ご主人様の肉棒への刺激を弱めるような意地悪は致しません。

遠慮なく——わたくしの肉穴に無責任な吐精を行ってください。

はあ……お願いだから、最後まで——罵倒してほしいのですか？

もう、わたくしは本心からご主人様の事をお慕いしておりますのに——本当に困った物です。

わかりました。

では、最後に一言だけ——言わせていただきますね。

あなたなんて、本当に、だいっきらいです……

精々、クソ穴に、マゾザーメンコキ捨てろ。この……変態♥

んっ……あっはあーっ……はあーっ……はあーっ……あついい……♥

あっ♥ もれるっ……♥ あっ♥ イク……♥ イク……イッております……♥

情けなく——おもらし、させられて……性欲処理のマゾザーメン受け止めながら、イカされております……

ふふ、ご主人様……わたくしの肉穴に精液を恵んで下さり、まことにありがとうございます
た♥ ご覧のとおり、わたくしも……睾丸から精液をおもらしすることができました……

♥

んっ……♥

よろしければ、もう少しだけ——遊んで行かれませんか？

よろしいですか……♥

ふふ、でしたら——こう言って差し上げた方が喜ばれるでしょうか……♥

幾ら出しても孕まない便器穴を犯すので、頭一杯のご主人様。

まだ、マゾチンポ射精したりないでしょう……

今度は本心で罵ってあげますから、ふたなり女のケツマンコに、もっと腰振りなさい♥

んっ……♡ いかがされましたか？

ほら、腰を止めてはいけませんよ♡

ご主人様からっ、言い出したのですから……♡

豚のように腰を振るのを今さら、おやめになるなんて、絶対に許しません……

ほら、マゾ豚……もっとゴリゴリと、わたくしの前立腺をコリ潰しなさい……♡

んっ……♡ はい、そうですよ——ご主人様はメイドに言われて、そうやって腰をへこへこ
と振っていればよろしいのです。

わたくしの身体をオナホ代わりに使って、気持ちよくなることだけを考えてください♡

精々、肉欲に任せるままに、精液をコキ捨てて——好きなだけ、快楽に溺れてくださいまし

♡

ご主人様も罵倒されながらの性交は、随分とお氣に召して頂いたようで何よりです。

それではまた、どうぞ心行くまで、メイドの淫乱な穴を肉棒でお楽しみください。

=====

4. 今宵の性欲処理は乳首責め、足コキ、言葉責めでございます…♪

=====

失礼いたします、ご主人様——本日もお疲れさまでした。

就寝前の紅茶といたしまして、カフェインレスのミルクティーをお持ち致しました。

就寝前に副交感神経を優位にする効果がございますので、よりよい安眠効果が期待できますよ……どうぞ召し上がってくださいませ。

失礼します。

いかがでしょうか、ご主人様のお口には合いましたか？

ふふっ、それは何よりでございました。

がんばって準備させて頂いた甲斐が御座いました。

あの、ご主人様……そのように畏まってどうされましたか？

何かわたくしに、命じることがあるのだしたら何なりと……

勿論この前のような一方的な奉仕であったも、問題なくお受けいたしますが——

あの、ご主人様？

その鍵は一体何に使う鍵なのでしょうか。

わたくしには皆目見当もつきませんが……

はあ、なんと……家令を問い詰め、わたくしの貞操帯の鍵をくすねて来ただなんて——

いえ、ただ少し驚いてしましまして……

どのようなお戯れであったとしても、ご主人様が望まれるのでしたら、勿論、わたくし——受け入れさせて頂きますね。

はい、このように

スカートをたくし上げさせて頂きました……どうしましたか？

そんなに息を荒げて——その様子ですと、ご主人様にとっては御褒美かもしれませんが…

…少々、蒸れてしまっていることはお許し下さい。

お恥ずかしながら……メイドの本分は肉体労働でございますから……
貞操帯を外すことは出来ない以上、コロンで隠す以外に方法はありません。

あの……すみません、ご主人様……わたくしでは、鍵穴はよく見えませんので……
お手数ですが、ご主人様の手で鍵は開けていただければ幸いです……

はあ……その、このような感覚は久方ぶりでございます。

ご主人様より身に余るご厚意をいただき、真に感謝の言葉ありません。

その……今までずっと外せなかったものが外れると、こんなにも開放的な気分になるもの
だったとは思いませんでした。

勿論、理解しております。

当然、わたくしはご主人様のメイドでございますので、多少の制約に関わらず、わたくしは
ご主人様の要求の一切を断る理由がありません。

どうぞ何なりと欲望をお満たして……頂きたいのは、やまやまなのですが――

残念ながら――ながらく、貞操帯によって封印されていたおかげで
わたくしのふたなりおちんぼは、勃起の仕方を忘れております。

この状態ですと、とてもではありませんが、ご主人様のお尻の穴に肉棒を挿入することは出
来ません。申し訳ありませんが、今日はどうか他の手段で性欲の処理をお楽しみいただけ
ばと思います。

その……ご主人様、そんなに残念がるのはおやめ下さい。

幾分、習慣化されてしまったことですから、わたくしにもどうにかなるわけでは……

はあ……なるほど、ご主人様にとってはこのように

己の目的をおあずけされ、残念な気持ちになることすらご褒美になってしまうのですね。

でしたら、今日のご奉仕では――ご主人様には今日は存分に残念がつて頂きましょうか。

ふふ、今更撤回しても遅いです――

今日の性欲処理は、きつとご主人様にも気に入って頂けるものと存じます。

ではご主人様、どうぞそのまま――

寝巻のままで居て頂いて構いません。

脚を広げて、両手を自由にする楽な姿勢でお待ちください。

わたくしはこのように、スカートを降ろして両手を自由にいたします。

ご主人様にはこの姿勢のまま、ふたなりおちんぼをおあずけされつつ

目一杯、乳首責めを楽しんで頂こうと思います。

さあ、それでは始めましょう――

わたくしは構造上、ご主人様の巢がとお見ることは出来ませんので――

遠慮なく、両手を乳首の前において、自らの手で乳首を撫で擦って、快感を享受して頂ければと存じます――

はい、かりかり、かりかり、かりかり、かりかり――

かりかり、かりかり、かりかり、かりかり――

ふふ、メイドに指示されながら行う、乳首責めの快感は如何ですか？

何分、乳首責めでございますので、オカズ抜きでは快感を拾うことすら難しいかもしれません。

ですから本日は――他に替えも御座いませんで、ご主人様のご尊顔にわたくしの股間を近づけさせて頂きますね、いかがですか？ご主人様。

わたくしの勃起していないふたなりおちんぼに、息が当たっておりますよう？

長らく、包皮の内側を洗えていない恥垢の香りが、それほどまでにお気に入りなのですか？

先ほどから、随分とわたくしのおちんぼ相手に熱心なご様子で何よりです。

荒々しい鼻息がわたくしのおちんぼにかかりまして、大変刺激が心地良いのですが――

残念ながら今日は、ご期待するような剛直となつて、ご主人様の被虐趣味のアナルを限界まで拡大して差し上げることはできません。

ですが代わりに、わたくしの秘所の香りを、どうぞ遠慮なくご堪能くださいませ。
このように顔に押し付けられてしまえば、口で嫌がろうともう逃げられませんよ。

んっ……♥ ご主人様の吐息がより荒く激しいものになりました――♥
まるで犬のように、必死になって香りを嗅いで――

こんな姿、他のメイドに見られては、屋敷の汚券に関わりますね。

ですが、そこまでして求めたとしても、今日は無理なものは無理でございます。
おあずけ——です、ご主人様に我慢を覚えるとは言いません。

寧ろ、我慢せず、むらむらしたまま——今日はより屈辱的なオナニーをお楽しみください。
ええ、どうぞ、そのままより激しく乳首を弄られては如何でしょうか。

いかがですか？

手に入らない快感を前にして、必死に自分を慰めるのはさぞ惨めでしょうね。

メイド相手に動物が屈服するような姿勢で乳首を自ら御慰めになる姿——

わたくしからは見えませんが、きっと随分と滑稽な姿なんでしょうね。

しかし、それがまた快感になるのでしょうか？

だって、ご主人様はわたくしのふたなりおちんぼを舐めそうな勢いですから。

ほら、ご主人様——悔しいなら、もっと強く、激しく、爪を立て

ご自身のマゾ快楽発生用の肉粒を被虐してみてはいかがでしょう。

乱暴に胸を揉みしだいて、痛いくらいに乳首を抓り上げて——

それでも足りなければ、わたくしの奉仕に御すがり下さいまし……♡

いえ、ほら、こうやって、ぎゅっ、ぎゅっと、力いっぱい股間を踏みつぶせば——

筋金入りの被虐体質であるご主人様であれば、多少は、乳首いじめにも精が出ると思ったのですが——少し乱暴が過ぎたでしょうか……

ですが、ご主人様、今の反応を見るに、どうやらお気に召したようで何よりでございます。
ああ、そうそう、勿論脚コキだけでは満足など到底いただけませんわね。

かりかり、かりかり、かりかり、かりかり——

かりかり、かりかり、かりかり、かりかり——

わたくしは姿勢もございますが——

ご主人様の肉棒を足で踏みつけることで精いっぱいでございます。

ご主人様が望んだマゾ快楽とはずいぶんと違う刺激であるとは思われますが——
かりかり、かりかり、かりかり、かりかり、かりかり——

ふふ、遠慮なくお楽しみください。

そんな落ち込まれずとも——時が来れば。ちゃんと犯して差し上げます。

ご主人様のお望み通り気持ちよくしてあげますから、安心なさってください。

かりかり、かりかり、かりかり、かりかり——

かりかり、かりかり、かりかり、かりかり——

そのように腰を浮かせて、足の裏に股間を擦り付けるの——よほど気持ちいいですね。いいですよ、好きなだけ、情けなく腰を振って、わたくしに踏まれていてくださいまし。

かりかり、かりかり——気持ちよければ遠慮なく——

かりかり、かりかり——声を上げて構いませんよ？

その、ご主人様の情けない声を聞かたびに、ぞくぞくと興奮いたしますから。

ほら、もつともつと無様に喘いでくださいまし……

かりかり、かりかり——

さて、そろそろ頃合いでしょう。

もう十分楽しんだようですし——やめにしましょうか。

かりかり、かりかり——

ええ、お戯れとはいえ、これ以上続けるとご主人様が射精してしまいそうですので。

それでは最後にもう一度だけ、思いっきり力を込めて踏み潰してあげますからどうぞ存分に味わってくださいね。

はい、ぐりぐり——ぐりぐり——、あら、どうしました？

もしかして、イってしまわれるのですか？

そのように乳首を一心不乱に弄られながら、肉棒を脚で踏み抜かれて——

そんな物欲しそうな顔をされて——

もしや、射精してしまうのですか？

ふふ、しょうがないご主人様ですね。

ですが、申し訳ありません。

今夜はもう疲れてしまいましたので、せめてもの情けとして——

ご主人様が無様に脚コキでいく所まで、見ていくこといたしますね。

さ、どうぞ、メイドに肉棒虐められながら、イキなさい。

はい、イけ……びゅっ、びゅーっ、びゅーっ ♡

ほーら、脚で踏まれて射精しながら、か

かりかり、かりかり、乳首摘まみ上げて、かりかり、かりかり――

ふふっ、そんなに息を荒げて、脚に精液コキ出されて喜んで閉まったのですか？

わたくしも、ご主人様が勢いよく精液をまき散らしているところを見られて……

本当に光栄で御座います。

はぁ……ご主人様、本当に良い表情になっていらっしやいますね。

どうぞ、我慢できないのであれば、目一杯――その乳首を自分で慰めてくださいね。

それでは失礼いたします。

部屋にまき散らした精液は、ご自分でお掃除してくださいませね。

それでは、おやすみなさいまし……

=====

5. ご主人様のアナル、発情したメイドに差し出していただけますか？

=====

失礼いたします、ご主人様。

いえ、特にご用はないのですが――

さきほど、割り当てられた仕事をしておりました所、他のメイドと口論になりまして……
頭を冷やすために、こうして、ご主人様の元にはせ参じた次第でございます。

ふふ、ご主人様、どうされましたか？

わたくしが、職務に関係のない行動をとること――そんなに珍しいですか？

確かにこのように、自ら職務を放棄して、ご主人様の膝に乗る様な真似――
他のメイドに見られては一大事ですな。

ですが、ご主人様であればわたくしがこのように――ぎゅつと……♡

無礼に抱き着いたとしても、寛大なお心遣いをいただけると――
わたくし、信じております。

ふふ、珍しいでしょうか……確かにそう思われても仕方ないと思います。
出会ったとき、わたくしはこういう『気風』であると説明しましたので……

ですが、ここ最近――貞操帯を外した日から――時よりむらむらとした感情が抑えられず
本来であれば気にするようなこともないことに、心を動かされてしまっております。

はい、ご主人様に容赦を頂けた、あの日から――

ご主人様を犯す日のことを考えて、湯浴みではきちんと、恥垢を洗うように気を付けており
ますし、毎夜毎夜ご主人様にお見せできないような、畜生以下の下品な自慰行為ばかりを――
――続けてしまっています。

今だって、気を抜いたら、このまま

椅子ごと――ご主人様の事を押し倒してしまいそうです。

ふふっ、ご主人様、このような性欲に溺れる愚かなメイドを軽蔑しましたか？

それでも、わたくしは――ご主人様が、発情したわたくしの――声に耳を傾けて下さってい

るだけで、密着したメスの肢体の温もりに、息を荒くして頂いていることに興奮してしまいます。

ご主人様、我慢はよくありませんよ——♡
わたくしは家具ですので、ご主人様が望むならば——♡
如何様に使ってくださっても構いません。

今のご主人様が欲求不満であることは、息遣い、表情、態度から——
わたくし、手に取るようにわかります。
あの日の脚コキ以来、ご主人様は満足に性欲処理を行っておりませんね？

だってご主人様が貞操帯の鍵を外したあの日から
わたくし——一度も性欲処理を行っておりませんもの。

ご主人様は、わたくしのおちんぼに、期待して下さっているおですね。
自分のアナルを、わたくしのふたなりおちんぼで貫かれての性欲処理をお望みなのですよ。
ね。

実は、ご主人様……怪我の功名というわけではありませんが——
わたくし、非常に苛々して、気が昂ってたまりません♡

はい、ですから、どうか、ご主人様の御情けを——
いまここで頂戴することはありませんか？

はい、主人様の開発済みのマゾアナルに——
わたくしのふたなりおちんぼを挿入させていただきたいのです。
そして、強直を突き入れられ、マゾ穴を征服されて喜ぶ被虐的な肉壺に——
わたくしの貯めて、貯めて、どろどろと黄ばんだふたなりザーメンを——
どくん、どくん——どくと、溢れるほど注がせて頂きたいのです。

さ、ご主人様……どうぞお命じになってください。
わたくしに、ご主人様のお尻を乱暴する許可を頂きたいのです。

「仕事が手につかない程、勃起しまったふたなりメイドの肉欲を、この不埒なマゾアナルで遠慮なく性欲処理してください」と——わたくしに、おねだりしてください——さ、続けて。

「仕事が手につかない程、勃起しまったふたなりメイドの肉欲を」

「この不埒なマゾアナルで遠慮なく性欲処理してください」

はい、かしこまりました。

ご主人様が望まれたとおり――

ご主人様のお世話を担当する身として、励ませて頂きますね。

ご主人様、これからご主人様のアナルをを刺激させて頂きますので

下を脱いで、あちらのベッドの上で楽な姿勢で寝転がって頂けますか？

どうぞ、準備ができましたら、遠慮なくお申し付けください

ご主人様……よろしいでしょうか？

下半身を露出して、わたくしにアナルを刺激される準備は整っておりますか？

体と心の準備が出来上がっているのですたら――

わたくしも手袋を新しい手袋に変える際に、ローションを準備しておきましたので――

ご主人様の命を遂行するために、アナルへの愛撫を始めさせて頂きます。

勿論、ご主人様が喜ばれるよう――

ご主人様の情けない姿は、きちんと罵ることを約束いたしますね。

ふふ、私からの罵倒を期待するその表情、本当に盛りを知ったメスのようですよ。

まずは、人差し指を一本だけいれて――存分に、可愛がって差し上げますね。

んっ……やはり、ご主人様のアナルは――

わたくしに犯されたくてたまらなくなっているようですね。

指を入れただけで、こんなに締め付けて――本当に、気が早いことです。

ご主人様はそんなに、このマゾ穴がどれだけ淫乱なのか――

ふたなりおちんぼを突き入れられたら、快感に屈服した肉壺が、本能のままに媚びずにはいられないのかを――教授せずには居られないのですか？

それがご主人様のご希望というのであれば――

わたくし、きちんと心からこのマゾ穴の痴態を理解することに致します。

はぁ……深く浅く、深く浅く、無遠慮に指を出し入れするたびに……
アナルが気持ちよさそうに痙攣して――

まったく、このマゾ穴は――

わたくしについている性処理用の肉穴の以上に、被虐的な性感体の自覚を持って、おちんぼからザーメンをコキ出すオナホールとして完成していらっしやるんですね。

こんなマゾ肉でおちんぼに奉仕されては、今日までずっと射精を我慢してきたわたくしでは――すぐにでも射精してしまいそうですわ。

ふふ……よかったですねご主人様。

念願を前にして、本当に良い表情ですよ？

わたくしの指で前立腺を弄られる感覚は……気持ちいいですか？

こうやって指を曲げると――ご主人様お好みの前立腺に指が触れて――

こりこりこりこり……と指を動かせば、甘い刺激が、ご主人様を狂わせているのが分かります。

ふふっ、そんなに身体をくねらせて、喜んで――

この、変態ご主人様は……本当に最低ですね。

メイドの指に犯してもらって、メスマゾ快楽に溺れるだけでは、全然足りない。
満足なんてできない。

かまいませんよ、ご主人様は被虐趣味ののですから――

このような、愛のある甘い愛撫では満足しないのは、当然ですものね。

ではご主人様、そろそろマゾ穴の引っ込みもつかなくなってまいりましたし――挿入する指をもう一本増やしますよ？

んっ……二本目を入れても、すんなり入ってしまいましたね。

それに先ほどまでの刺激では全く満足できなかったとでも言わんばかりに
また、身体が跳ねました。

はぁ……ご主人様を望むべくもなく焦らしてしまっていたなんて――申し訳ございません。
わたくしへの折檻はまた後程に、今はより激しい御奉仕が、

淫乱で変態なご主人様には必要であると存じます。

ご主人様——もう三本目、入れてしまいますね。

あら……先ほどよりも強く強く指が締め付けられていますわね。

勿論——ここで容赦など致しません。

この状態で、より早く——リズムよく指を動かして差し上げるのが——
ご主人様にとってのアナル奉仕のベストであると存じております。

ここ最近焦らし気味で、欲情なさっているおかげか

ご主人様の反応がずいぶんいいようで、わたくしも一安心でございます。

やはり、焦らされたうえで与えられる刺激に勝る快感はないようですね。

このようにぐりぐりつと、前立腺から奥の方に指を滑らせるだけで——

ご主人様が、可愛いらしく切ない恋をあげていらつしゃいます——

このままわたくしのふたなりおちんぼを受け入れたら一体どんな反応を見せていただける
のでしょうか——わたくしも、我慢の限界になってしまいました——♡

ふふ、ご主人様……♡

マゾアナル、随分とただれたように熱をもつて広がって——♡

わたくしのおちんぼを受け入れるに足る性器となりましたよ。

はあ……もうご期待が止まりませんか？

勿論、わたくしもです——わたくしも、もう、我慢ができません。

ご主人様の命のためとはいえ、このように腰を持ち上げて——

押し倒してしまいました。

ふふ、ご主人様——みえますか？

わたくしのずるむけの剛直、ふたなりおちんぼが——

ご主人様のアナルにもう触れておりますよ。

先日、解放されたときは貧相に縮こまっておりましたが、ご主人様の、恥ずかしく、情けない、マゾ姿を見て——きちんと勃起することが叶いました。

ご期待された通り、わたくしのおちゃんぽは、根元から亀頭の先まで、25cmもございますので――突き入れれば、ご主人様のアナルのどこまで届いてしまうのか分かった物では御座いません――

楽しみですか？ ええ、楽しみにしててください。

もう、ご主人様のアナルがわたくしのおちゃんぽを飲み込み始めていらつしやます。

ご主人様、如何ですか？

ここまで寂しく開発してきた、マゾ肉がわたくしのはじめてで広がっていくのは、言葉にできない無量感がございますか？

ふふ……めりめりと、ご主人様のアナルの奥にわたくしが押し入っていきますよ、

ご主人様、どうかふたなりメイドの男性器によって、敗北する姿、もうしばらくお見せくださいまし――

んっ♥ 入りました……ご主人様のお尻の中に――わたくしのふたなりおちゃんぽが、全部入っております。

それでは、ご主人様――わたくしのふたなりおちゃんぽで――

ご主人様のアナルを堪能、させて頂きますね。

はあ……このような機会をいただけたこと、重ねて感謝しております。

わたくし、もう、腰を止めることができません。

ご主人様のアナルは、ふたなりおちゃんぽを優しく包み込む名器でいらつしやいます。熱くて、柔らかくて、それでいてキツく締まっていて、とても気持ちがいいですよ。

ご主人様もご満足いただけておりますか？

こうして腰を前後に動かすだけで、ご主人様のお顔がどんどん蕩けていらつしますから――聞くまでもなさそうですね。

それに、喘ぐようなお声だって、もう止まらない。

少し苦しい位が、今のご主人様にとっては快感なのですね。

気持ちいいですね、ご主人様？

そのように、痙攣して――

アナルに埋まった強直からの悦楽に悶える姿、本当にいいおしいですわ。

ですが……ご主人様、いくら、わたくしのピストンで

一方的な快楽を与えられてしまうからといって、快感から逃げるのはいただけませんよ。

ほら、ご主人様を押し倒して腰を振るたびにぶるぶると震える
わたくしの下品な牛乳（うしちち）に埋もれて構いませんので――

マゾ快楽からお逃げになるのをおやめください。

わたくしはご主人様から命じられているのですから――

ご自分が言ったことには責任を取って頂かなければいけません。

ほら、ご主人様、ご命令通り、ご自分で、わたくしの腰に縫って下さいまし？

自らの意志で、自らの行為で身体の自由を明け渡してしまえば、わたくしの奉仕に逆らうことなど、もうできませんね？

そう、そのまま遠慮せずになんたくしの肉棒に身を委ねてください。

心から快感に敗北して、アナルへの快感をお受け入れください。

そうすれば、もっと気持ち良くなれますよ。

メイドに犯されて喜ぶ、マゾヒストのご主人様♥

んふっ、わたくしの腰が動くたびに、いやらしい音が響いてしまいますね。

この音を聞く度に、自分が今セックスをしているのだと自覚してしまいます。

わたくしも、もう我慢できません。

ご主人様が快感を感じられるよう――ピストンを速めてまいります。

んっ……♥ ご主人様、すごい声――♥

それに、前立腺を潰されるたびに、すごい反応――♥

マゾ快楽に負け、アナルを掘られるだけでおもらし射精、秒読みでございますね♥

快感の虜、に堕ちてしまいますよね♥

ご遠慮なさらず、存分に感じて下さいませ。

わたくしのふたなりおちんぼに貫かれて、肉壁こすられて、気持ちよくなってください。

ご主人様の望まれるように、アナルを掘りぬかれて

オスの急所である前立腺を挟まれて

ご主人様でありながらメイドに組み敷かれる屈辱を快感として、

脳に刻み込んでください♥

ふたなりおちんぽに負けて、いきなさい——♥

いけ、いけ……いきゅっ……♥

あっ……ご主人様、申し訳ございません。

あまりにも気持ち良すぎて……わたくし、我慢できず射精してしまいました……♥

んっ……♥

ダメです——そのように快感に溺れられて……♥

メイドに射精を催促するように、アナルを痙攣させるなど——♥

ご主人様が足を絡められていらっしやるお陰で、わたくしは逃げるのが叶いません。

これが、ご主人様からの罰であるというならば——

わたくし、甘んじて腰振りの方、続けていきますね。

大丈夫です、ご主人様の望むままに、わたくしが動いてあげますので——

どうぞ安心して身を任せてください♥

ああ、それにしても、こんなにも簡単に射精してしまうとは思いませんでしたわ……

んっ……ああ、やはり味わえば味わうほど、ご主人様のアナルは、素晴らしい締め具合で、おちんぽに媚びる、高級志向の生オナホでございます。

これでは、一度イっているとはいえ——

わたくしも長く持ちそうにありませんので——もっと早く動かせて頂きますね。

ダメですよ。

ご主人様、腰を浮かせて——おちんぽから逃げようだなんて♥

いくらご主人様と言えど——

ふたなりおちんぽに白旗を上げた、マゾ負け人間に對して——

わたくしは、容赦をする理由がありません。

あらっ、どうしました？

わたくしのようなふたなりメイドに、性処理の立場で逆転されて——

本心から喜んでいらっしやるのですか？

こうやって、一方的な命令を受けて奴隸のように使われることが――
ご主人様は、それほどまでに気持ちいいんですね。

ふふっ、答えられないほど感じていらっしやるようで何よりです。
いいですよ、その調子でもっともっと感じてください。

マゾアナルを犯されて、ご満悦のご主人様――♥
わたくしも、そんなご主人様への奉仕をやめられそうにありません。

はぁ……このマゾアナルレイプ、癖になってしまいますわ……♥
お恥ずかしながら、もう射精してしまいそう。

ご主人様も先ほどから、アナルイキが止まりませんね。
勿論、このまま、中に出させていただきますので――
ご主人様のケツマンコに種付けしますので――

どうぞ、ご自由にイってください♥
んっ……♥ ご主人様……♥
これからも、幾度でも犯して差し上げます……♥

それではまた、お射精の方、失礼いたしますね。

ん……イク……♥

=====

6. ご主人様は今日からわたくしのマゾ犬です…♪

=====

失礼いたします、ご主人様——本日もお疲れさまでした。

いきなりですが、ベットに失礼することをお許し下さいまし。

わたくし、精力剤を摂取してまいりましたので、準備は万端。

今日も、お休み前の性欲処理として——

ご主人様が望まれる通り、わたくしのふたなりおちんぼで——ご主人様のアナルを、マゾ虐めさせて頂こうと思います。

くす、どうされましたか？

いきなり押し倒されて困惑している割には——

わたくしの俗な言葉攻めに、随分と喜ばれていらっしやいますね。

いえ——ご主人様が筋金入りのマゾであること

今までの奉仕でよく理解しております。

幾度も性欲処理を頼まれていることもあり——

ご主人様の好みや癖などは既に把握済みです。

ですから、今日も——メイドとして

ご主人様の被虐心をくすぐりながら、おちんぼで肉穴を征服させて頂きますね。

ふふ、どうしましたか？

今日のご主人様は——随分と甘えん坊のようですね。

わたくしの体が恋しくてしょうがないというのでしたら——勿論、お預けでございます。

どうされましたか？

ふふ、ご主人様、随分と残念そうな表情をなされておりますね。

いけませんよ、そのような態度では——♥

ご主人様はわたくしのようなメイドに心を動かされてはなりません。

わたくしのことは、変わらず生きた家具として扱っていただきたいのですが——
ええ、どうしてもご主人様が——言うことを聞いてくだらないならば

わたくしにも、考えがございます。

さ、どうぞご主人様。

その場で、ベッドの上で、犬のように四つん這いになってくださいまし。
わたくしの姿が見えない様に、わたくしにご主人様のお尻が見えるように——
おすわりして、くださいまし。

ご準備の方、終わりましたか？

それでは、ご主人様、後ろ側からまたがらせていただきますが——
姿勢はそのままでよろしく願いますね。

ん……♥ いかがですか？

お世話役のメイドにこのようにまたがられる気分は——屈辱でしょうか。
それとも、普段通り喜んでいらつしゃいますか——？

勿論、今日の趣向は、これだけではございません。

ご主人様に変態的なプレイをお楽しみいただくため——

本日は、お戯れとして「動物」になって頂こうと思います。
勿論、特別何か拘束などをして頂くわけではございません。

代わりに、少し

失礼いたします。

はい、わたくしの首輪を——ご主人様につけさせていただきました。

この首輪は本来は装着する奉仕者に暗示をかけるために使われる物なのですが——
暗示とセットでなければ、ご主人様が付けてもただの首輪にございます。

勿論これはプレイが終わった後は外させて頂きますので、どうぞご安心ください。

わたくし自身、ご主人様からの鈴の音が分らないと、御奉仕が大変でございますし——
他のメイドに見られた時、わたくしが困ってしまいます。

ですが今だけ、わたくしと一緒に居る間だけは——ご主人様は、犬でございます。ただ、ふたなりの強直を受け入れるために生きているマゾ犬……よい響きですね。いくら愛と快感を求めても、許されるペットの立場、幸せですよ。

ご主人様、暫しの間——

この犬畜生の首輪の元で、わたくしメイドの犬として可愛がられてくださいまし。

はい、では、犬……はい、犬です。

こういう戯れでは呼び方は、とても大切であると思われます。

ですから、犬——これからわたくしに呼ばれたら回答は「わん」です。

できますか——犬……♥

よくできましたね——でしたら、犬。

そのまま、媚びるようにアナルを差し出しなさい。

わたくしが差し出したように、性処理用の穴としてアナルを差し出すの。

きつと自らが如何に落ちぶれたのか体でわかって、気持ちいいですよ——犬。

はい——犬、良く出来ました。

メイドのいうことを聞けて、偉いですね。

人で知らないペット扱い、屈辱ですね。

さ、わたくしのペットが新しい扉を開いたところで——

早速ご褒美を差し上げないといけませんね。

はあ……どうしました？

直接このように、アナルにローションを注入するだけですよ。

少々冷たいでしょうが、わたくしのペットの犬は

このような粗暴な行いを身に受けた方が——興奮するのですよね？

ですから、構いませんね。

はい、お返事ありがとうございます。

じゃあ、マゾ犬——

今からあなたのアナルを犯していきますが、決して抵抗をしてはいけませんよ？

だって、あなたは犬ですからね。

メイドの言いなりのマゾペット、ふたなりおちんぼを、奥まで受け入れて——
ふたなりに支配されるマゾの幸せ、感じなさい……♡

んっ！……やはり、凄まじい締め付けですね……。

でも、どうして、そんなに身体を固くしているのですか？

感じている割りに、体が抵抗していますよ——♡

まだおちんぼ半分も入り切っていないのに、根を上げたらだめ——
ほら、もっと力を抜きなさい。

おちんぼでアナルを無理に押し広げられる感覚すら、快感にしないとだめですよ。
少し無理をしてでも、全て受け入れなければ——。ペット失格ですよっ♡

んっ♡ 入りました……犬のマゾアナルに——

わたくしのふたなりおちんぼが、全部入ってしまいました。

それでは、犬——わたくしのふたなりおちんぼで——

犬のマゾ肉、目一杯虐めて差し上げますね。

ふふ、いかがですか？

アナルを巨大なおちんぼで貫かれる気分は——

苦しそうにしていながら、喜んでいらっやいますよね？

本当に最低ですね、マゾ犬は。

わたくしのようなふたなりよりも下の犬になっても、まだ喜んでいられるなんて——♡

どうしましたか？

わたくしの侮辱の言葉など、気にならないくらい気持ちいいのですか？

こんな排泄物をひり出しているような刺激に心が狂わされてしまうのですね。

それとも、幾度も味わった虜になる快感だから、もう気になりませんか？

どちらにしても、今のマゾ犬の表情はとても素敵ですよ。

普段の凛々しい表情からは想像できないほど蕩けた顔になっていますもの。

さて、そろそろ早く腰を振って差し上げるべきでしょうか。

だってマゾ犬は、こうやって、おちんぼに支配されている瞬間が幸せなのでしょう？

ん……あ、ふう……中々良い具合ですね。

流石はふたなりおちんぼが好きな犬の——肉穴です。

相変わらず、とろとろでわたくしのおちんぼに絡みつく——

自分の地位を使って、エッチのための快感に没頭した穴……♡

ですが、まだ足りませんね——

メイドのわたくしを、喜ばせようとする気持ちが足りません。

さ、犬、どうぞ鳴いてみてください。

わん、わんと——ピストンにあわせて、媚びなさい。

あら、どうしましたか？ まさか、鳴き声を忘れたわけではないでしょうね？

わん、わん……さ、もう一度鳴きなさい。

心の底からおちんぼに喜んで——

飼い主が喜ぶように、わんわんと——そうです、その調子です。

次はもう少し大きな声でお願いしますね。

はい、わんわん——わんわん——

そうそう、上手ですよ。

ご褒美に、その肉棒を自分で刺激することを許しましょう。

自分の手で握って、上下に動かしてごらんなさい。

どうしたのですか？

犬になったら、わたくしに甲斐甲斐しく奉仕してもらえと思ったのですか？

残念ですね。

期待されていたなら申し訳ありませんが——

この方が——マゾ犬には——本当は嬉しいのでしょうか？

犬扱いされてアナルを犯されながら、屈辱的に肉棒を手コキする……♡

せっかく犬になったのに——♡

愛してもらえないなんて、悔しい、悲しい、気持ちいい♡

ふふ、かわいいですよ。

くす、そんなに必死に手を動かして、本当に惨めで愛おしい。

わたくしの——マゾペット♥

さ、マゾ犬、わたくしはこのまま前立腺を抉って差し上げますから——
引き続き、手コキを続けなさい。

他人に扱くように命令されながら、アナルを抉られるのは——
自分のペースで扱くのはまた違う快樂でしょう？

それに、こうして腰を動かすたびに
亀頭が腸壁を擦り上げていく感覚と合わせて——
どんどんと肉欲の虜になれていますね。

ふふ、こんなにハイペースで責められたら——もう我慢できませんか？

仕方ありません

射精する時はちゃんと報告してくださいね。

分かりましたか？ はい、よろしいです。
では、思う存分出してしまいなさい——

びゅー、びゅーっ——どびゅ、どぶっ……どくんっ……ぶりゅ、ぴゅっ……♥

ふふ、たくさん出しましたね。

こんなに濃い精液を出されてしまうと、後で掃除するのが大変になってしまいます。

それにしても、随分と沢山出されましたね。

これでは後始末にも時間がかかってしまいます。

ベッドのシートどころか、噴き出した精液が床にまで垂れてしまっていますよ。

全く、これだから変態マゾ犬は、可愛い……もつと、もつと虐めたくなくなってしまいます。

さ、御褒美として——もつともつと腰を振って差し上げます。

いかがですか？ 気持ち良いでしょう？

犬が満足されるまで、何度でも犯してさしあげますからね。

遠慮せずに好きなだけ喘いでくださいまし。

んっ♡ んっ……♡ んっ♡ おっ♡
おっ……♡ おん……♡ おん……♡ おう……おっ♡

おっ……どうしましたか♡

わたくしがっ……んっ♡ 喘いでいるのが、そんなに不思議ですか……？

あっ♡ 別に、大したことではありませんよっ……んんっ♡

ただ、この犬のアナルを舐けていると――

おっ♡ すこしっ♡ 楽しくなってしまうだけですからっ♡

そんなことより、犬――ほら、もっと締めなさい♡

そんなおちんぼに喜ぶだけの、緩い穴ではっ♡ いくら可愛く喘いでも――♡
わたくしのふたなりおちんぼは満足しませんよ……♡

んっ♡ んっ♡ あっ……♡

ああっ……おっ♡ おおっ♡ おっ♡

おほっ♡ ほっ♡ ほっ♡ おおっ♡

ほおっ……♡ おっ♡ ほ♡ ほっっ♡

ほっ♡ おっ♡ おおっ♡ お”おおっ♡

えへい♡ ひひゅっ♡ おおっ♡ おっ♡ お”っ♡ お”っ♡

イクっ♡ クるっ♡ クるっ♡

マゾ犬の痙攣アナルにイクっ♡ イくっ……♡

ふっ♡ ふっっっはうっ♡ ほっ♡ ほっ♡ ほっ♡

ほひっ♡ ほお……っっっ♡♡♡

んおゝっ♡ おっ♡ ごっ♡ おゝっ♡ お”っ♡

へっ♡ おゝっ♡ おおっ……♡ おゝっ♡

はぁ……はぁ……はぁ……はぁ……。

ふふ……ご主人様のアナル、本日も思うがままに犯させていただきました。

ご主人様、いかがでしたか？

本日も、マゾ快楽で被虐心を満たして頂けましたでしょうか？

ご主人様のおもらし姿、本当にかわいかったですよ——
わたくし、最後は、はしたない声を上げてしまいました。

事実として、少し興奮してしまったことを認めます。

勿論、ご主人様も——楽しんでいただけましたよね？

ふふ、いかなされましたか、ご主人様……

そのようにわたくしにぎゅーっと抱き着いて——

少々戯れが過ぎて居たのでしたら、申し訳ございません。

もしご主人様が望まれるのでしたら、朝までこのままにいることもできますが——

わかりました……

ご主人様、このまま失礼いたしますね。

おやすみなさい、ご主人様。